

2013年度就職状況－10月調査結果報告－

■ 圧縮スケジュール2年目の就職状況

ここ2年間の就職状況を振り返って見ると、2012年卒は大卒求人倍率が1.23倍、東日本大震災の影響で就職・採用活動が「分散化・長期化」した年でした。2013年卒は大卒求人倍率が1.27倍と前年よりわずかに回復、採用広報活動の開始時期変更にともなう「圧縮スケジュール(2013年卒から企業の広報活動開始時期が2カ月後ろ倒し)」が導入された初年でした。

2014年卒の現4年生については、図1のとおり大卒求人倍率が1.28倍と前年の1.27倍と比べて横ばい状態でした。しかし、求人総数そのものは、「アベノミクス」による経済状況の好転に連動して増加することが期待されたものの、新卒採用予定数にはまだその影響は見られず、むしろ今年

は減少(2013年3月卒の55万3,800人から約1万人の減少)しています。

企業は基本的に「採用予定数に満たなくても求める人材レベルは下げない」という厳選採用のスタンスを崩してはいたませんが、わずかながら緩和の兆しも見られます。また、内定を出す時期も昨年と比べて早まっています。なかでも採用力のある企業は、圧縮スケジュール1年目の経験を踏まえて早期に内定を出し、優秀な学生を獲得する体制で採用活動に臨んだものと思われる。

■ 昨年同時期比では内定率大きく上昇

本学では、学生の進路状況を把握するために、卒業予定者の7月、10月、12月、2月時点での進路・内定状況について、卒業予定者の約10%を対象とした電話によるサンプル調査を実施しています。図2は、2012年・2013年3月卒業生と2014年卒業予定者の内定率を3年間比較した本学の調査結果ですが、本年10月時点での内定率は、前述のような企業の動きを反映して高い内定率を示しています。順調に推移すれば、卒業時の実態調査では例年どおりの高い就職決定率になることが見込まれます。

図1 大卒求人倍率と本学就職決定率の推移

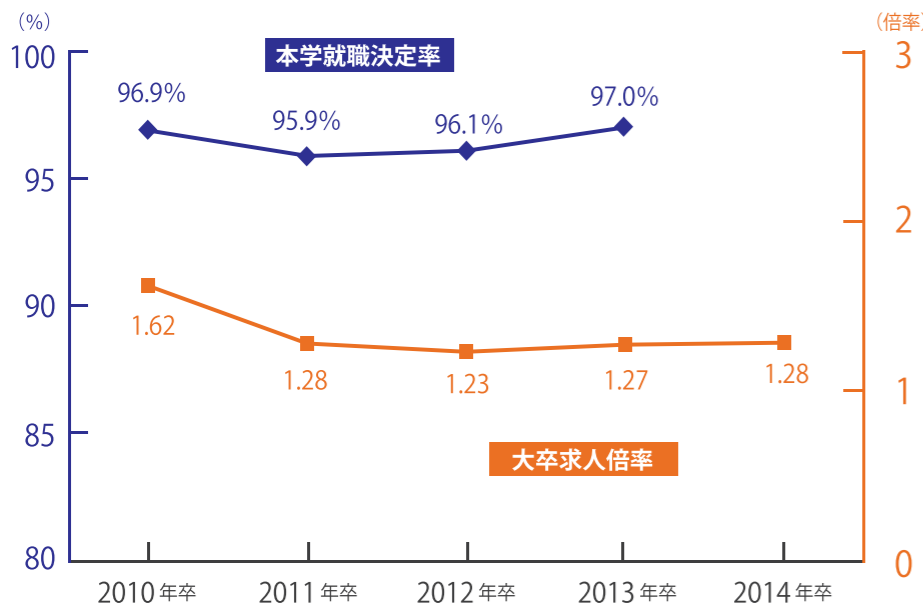


図2 内定率の年間推移 (3年間比較)

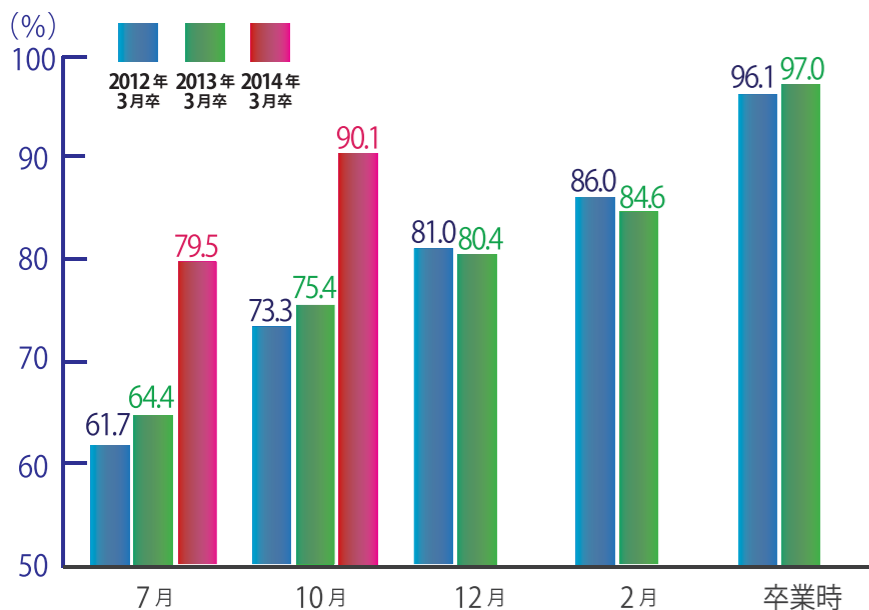


図3 10月サンプル調査内定率(男女別3年間推移)

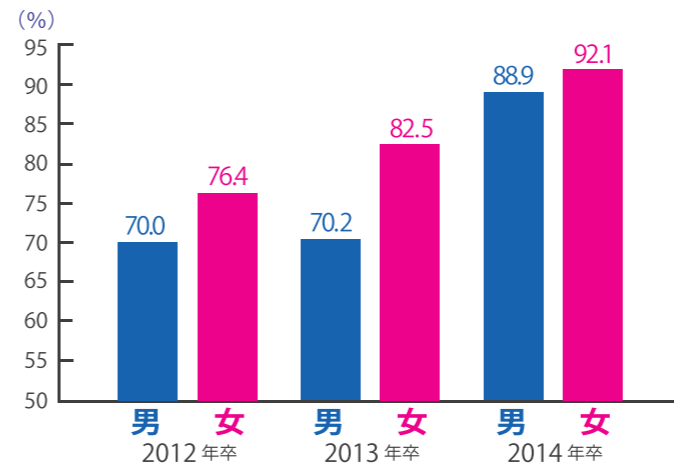


図3は、10月時点での男女別内定率の3年間推移です。例年女子学生の内定率が男子学生を大きく上回っていましたが、今回は男女ともに高く、大差のない調査結果となっています。

■ 学員のご協力による各種就職支援企画の展開

キャリアセンターでは、低学年からのキャリア形成支援はもとより、学生個々に寄り添った面談を中心に据えた直接的な就職支援に重点を置きつつ、学生が円滑に社会人に移行するために必要な就職支援企画を時期に応じて順次実施しています。なかでも学員にご協力いただいている各種就職支援企画では、学生と学員の方々との交流を通して、学生が「社会に出ること」「働くこと」をより具体的にイメージできる機会の創出を実現しています。

11月には約400名の学生が参加する「OB・OG交流会」が開催され、さまざまな業界から世代を超えた学員に多数ご参加いただき、就職活動に臨む主に3年生を対象にリアルかつ貴重な情報を提供いただいています。また、交流会の前には、本学学生の志向性が高い金融業・製造業・商社等で活躍する学員の方数名をパネラーにお招きし、同窓の先輩ならではの切り口から、各業界への理解を深めるパネルディスカッションを開催しています。

社会人と接する機会の少ない学生にとって、実際に社会で働く学員の生の声を直接聞くことができる当交流会は学生の満足度が大変高く、12月から本格的に始まる就職活動への意識付けともなっています。また、これをご縁に、OB・OG訪問等で引き続き学生を支援していただくなど、交流会後の就職活動においても、多くの学生が学員のご協力に支えられています。

なお、社会人と接点を持てるイベントは学生の需要が高いことから、年明け早々の1月11日(土)・12日(日)実施の面接力UPセミナーの後にも同様の交流会を開催する予定です。

OB・OG交流会

開催日程：2013年11月16日(土)・11月30日(土)
 卒業生によるパネルディスカッション(学生のみ参加)
 卒業生と学生の交流会
 卒業生同士の懇親会
 参加者数
 卒業生：11月16日(土)42社49名
 11月30日(土)47社55名
 学 生：定員 各日ともに200名

面接力UPセミナーにおけるOB・OG交流会

開催日程：2014年1月11日(土)・1月12日(日)
 参加者数
 学 生：350名
 講 師：27名(全員本学卒業生) 本セミナー終了後、参加学生と講師とのOB・OG交流会を開催します。



column